

アセスメントツールの検証等に係るワーキンググループの設置について（案）

1 平成 29 年度に開発した新たなアセスメントツールについて

平成 29 年 4 月に策定した「第 2 次札幌市児童相談体制強化プラン」の取組として、平成 29 年 6 月に、札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会の中に「関係機関における総合的な支援検討ワーキンググループ」を設置し、下記の成果物を作成した。

- (1) 在宅支援アセスメントシート
- (2) 在宅支援アセスメントシート記載要領
- (3) 児童虐待防止ハンドブック～関係機関の協働による子どもと家族の支援～

また、本年 4 月より、本格運用を開始するとともに、「児童虐待防止ハンドブック～関係機関の協働による子どもと家族の支援～」を各関係機関に広く配布している。

2 新たなアセスメントツールの検証及び見直しについて

開発時の過程において、本格運用後 1 年程度使用した段階での検証及び必要に応じた見直しの機会の必要性についての意見があったことから、本年 2 月の児童福祉部会及び 3 月の札幌市要保護児童対策地域協議会代表者会議において、新たなアセスメントツールの活用状況の検証及び必要に応じた見直しを行うことについて、説明を行っている。

3 検証及び見直しに向けたWG（ワーキンググループ）の設置等について（案）

新たなアセスメントツールの検証及び見直しは、開発の経過を踏まえて議論を行うことが効果的かつ効率的であることから、下記のWGを設置して行うこととする。

(1) WGの名称

関係機関における総合的な支援検討ワーキンググループ ※開発時と同様

(2) WGの位置付け

札幌市子ども・子育て会議の中に常設している「児童福祉部会」の中のWGとして設置。なお、WGの議論は、協議事項に見識のある臨時委員を追加して行う。

(3) WGの協議事項

ア 在宅支援アセスメントシートの活用状況及び個別ケース検討会議の運用状況等に関する検証を行う。

イ 在宅支援アセスメントシート及び児童虐待防止ハンドブック等の内容の見直しが必要な場合は、見直しの内容について検討を行う。

(4) WG委員 ※開発時と同様

| 職名 | 氏名 | 所属 |
|---------|--------|--------------------|
| 委員（部会長） | 松本 伊智朗 | 北海道大学大学院 教育学研究院 教授 |
| 委員 | 水岡 路代 | 札幌市私立保育園連盟 副会長 |
| 委員 | 若松 尚代 | 札幌市中学校長会 会計 |
| 臨時委員 | 大場 信一 | 社会福祉法人北翔会 総合施設長 |
| 臨時委員 | 加藤 曜子 | 流通科学大学 人間社会学部 教授 |
| 臨時委員 | 澤田 いずみ | 札幌医科大学 保健医療学部 准教授 |
| 臨時委員 | 横山 登志子 | 札幌学院大学 人文学部 教授 |

4 スケジュール（案）

| 児童福祉部会 | 検証WG |
|---|---|
| <p>○8月27日（月）（本日） WGの設置及び体制等について審議を行う。</p> <p>○2019年 2月～3月 WGにおける議論の結果について、児童福祉部会に報告を行う。</p> | <p>○10月中旬～12月上旬 （札幌市の事務局の作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツールの活用状況の把握 ・関係機関、児童相談所及び各区家庭児童相談室等における意見を集約 ・把握した活用状況及び集約した意見を基に、第1回WG会議における議論のたたき台を作成 <p>○12月上旬頃 第1回WG会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用状況等の検証及び今後の方向性の案) を検証WGで共有し、今後の方向性を議論。 ※議論の結果、アセスメントツールの見直し等を行わない場合は、WGの活動は終了。 <p>○1月中旬～下旬頃 第2回WG会議の開催</p> <p>第1回会議の見直しの方向性について議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ※議論がまとまった場合はWGの活動は終了。 必要に応じて第3回WG会議の開催を検討。 |